

## List of exhibits

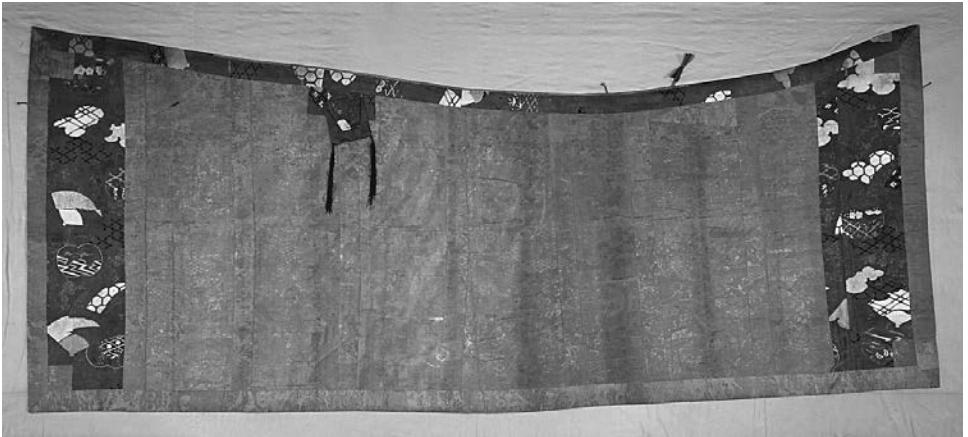
No	Title	Material	Century	Size(cm)	Collection
1	◎ Blade for a Slung Sword (Tachi)	steel	Japan, 13th century	L. 67.0	Matsunaga Collection
2	○ Mirror with Scattered Fans Design	bronze	Japan, 14th century	D. 19.5	Matsunaga Collection
3	Mirror with Mandarin Ducks Design in Relief	bronze	Japan, 12th century	D. 18.0	Matsunaga Collection
4	Mirror with a Figure of Diety in Relief	gilt bronze	Japan, 12th century	D. 18	Matsunaga Collection
5	Sutra Case	bronze	Japan, dated 1118	H. 30.3 D. 13.6	Matsunaga Collection
6	Hyakuman-to Pagoda Containing Printed Sutra from Horyuji- temple	color on wood	Japan, 8th century	H. 20.7	Matsunaga Collection
7	Box, Decorated in Maki-e Lacquer with Design of Beads	lacquered wood	Japan, 14th century	H. 8.3 D. 13.5	Matsunaga Collection
8	Incense Burner with Three Feet	gilt bronze	Japan, dated 1170	D. 30.7	Matsunaga Collection
9	Bowl with Buddhist Figure in Line Engraving	bronze	Japan, 8th century	H. 11.7 D. 24.4	Matsunaga Collection
10	Kundika Ewer	sahari alloy	Japan, 10th - 12th century	H. 39.7 D. 13.2	Matsunaga Collection
11	Kei (Buddist Ritural Gong) with Lotus Pond Design	bronze	Japan, 12th century	H. 9.2 D. 26.7	Matsunaga Collection
12	Cylinder of Hand-Drum with Design of Hosoge Flower Design	lacquered wood	Japan, 8th century	L. 48.5 D. 15.5	Matsunaga Collection
13	Masks for Bugaku Dance	color on wood	Japan, 12th century	L. 17.0 D. 13.0(red)/ L. 18.0 D. 12.5(white)	Matsunaga Collection
14	Kesa (Priest's Robe) of Nine Patched Bands in Tsujigahana-zome Dyeing	silk with embroidery	Japan, 16th century	133.0×313.0	Matsunaga Collection

# 捧げものの世界

The World of the Offerings

会期 2022年1月19日(水)-4月10日(日)

会場 松永記念館室



出品No.14 《辻ヶ花染九条袈裟》

古い美術作品には、神仏への捧げものとして作られたものが多くあります。また、日用品だったものが神仏へ捧げられることで、今まで伝えられたものもあります。本展では、こうした「捧げもの」という視点から作品を紹介します。

(学芸員 宮田太樹)

## 神への捧げもの

日本において、神は目に見えない存在であり、巨木や巨岩、山や滝などの自然に宿ると考えられてきました。これら自然はわたしたちに豊かな恵みをもたらす一方で、地震や落雷、大風や大雨など深刻な被害をもたらすものもありました。

そこで、人びとは神への畏敬の念をあらわすために祭祀を行い、様々な捧げものを用意したのです。このような経緯で捧げられた宝物のことを「神宝（しんぼう／じんぱう）」と称することがあります。残念なことに、本展の出品作の中で神宝として制作されたと断言できるものはありません。ですが、古い記録をひもといてみると、刀剣をはじめとする武具（作品1）や、鏡（作品2～4）が、神への捧げものとして頻出していることに気づきます。

特に《神像文鏡》（作品4）は、男性貴族の格好をした神の姿が鏡の表面に彫り表されており、神への信仰に関わることは明らかです。所々、緑青に覆われておらず地中に埋納されていたようです。鏡をはじめとする財宝を埋めることで土地に宿る神を鎮めるという願いがあったのでしょうか。

地中に埋納するタイプの捧げものとして忘れてはいけないのが経筒（作品5）です。経筒は一般的には、経典を堅牢な容器にいれて地中に埋納することで、遠い未来へ仏の教えを守り伝えるものといわれます。一方で、埋経が行われている場所の多くが、神が宿る聖地であることを思うとき、これらの経典は神への捧げものとしての意味も持っていたと考えることができるかもしれません。すなわち、仏の力で神を慰撫したりパワーアップさせたり、そのような願いを読み取ることができます。

## 仏への捧げもの

捧げものは神だけでなく仏に対しても行われました。代表的なのは、《百万塔》（作品6）です。木製の三重塔で、内部には木版による経典が納められています。奈良時代に、称徳天皇の発願によって製作されたもので、製作数が百万基であったことからこの名前があります。発願のきっかけとなったのは、天皇自身の親戚筋でもある藤原仲麻呂が反乱を起こしたこと。乱の平定や国家の安寧を願って、10の寺へ分置されました。

仏教儀礼において、仏や故人にに対して様々な物を捧げますが、その時に用いる道具類のことを供養具といいます。捧げものとして何が相応しいのかは、経典でも説かれており、中でも香（作品7、8）、花、灯は基本の3点セットとも呼ぶべき代表的なものです。また、

飲食（作品9、10）を捧げることも古くから行われてきました。

あるいは、音を奏でる馨（作品11）や鼓（作品12）、舞を披露する際に用いる面（作品13）なども、捧げものの為の道具といってよいでしょう。

そして、最後に仏への捧げものとして紹介したいのが《辻ヶ花染九条袈裟》（作品14）です。辻ヶ花とは、縫い締め絞り（染め残したい部分を糸で絞って括り、テルテル坊主のようにして、染料が入ってこないようにする）の技法を用いて模様を染めた衣服のこと。本作では両端の部分—茶褐色（紫が変色した可能性もあります。）の地に扇や団扇、雲が配された部分ーが辻ヶ花です。この辻ヶ花の部分は、元々は別の衣服だったのが、ある時期に袈裟に仕立て直されたと考えられます。

このあたりの事情を示すのが、本作の裏地に記された墨書銘で「寄進羽田筑後守殿御内室」、すなわち、「羽田筑後守」の夫人によって奉納されたことが分かります。「羽田筑後守」とは、武田氏や真田氏に仕えた武将で、大阪の陣で戦死した羽田竹久に該当する可能性が高いです。

惜しいことに、墨書銘が一部判読できなくなっています。奉納の目的がはっきりしません。ですが、他の事例を参照するならば、故人が生前用いていた衣服を供養のために寺院へ奉納した、という推定が可能です。

となると、この辻ヶ花は誰が身に付けていたのかに興味がわいてきますが、残念ながら良くわかりません。本作に似たデザインの衣服を身に付けた女性の肖像が残っており、この種のデザインは女性が身に付ける衣服だったという説があります。この説に従えば、娘や母親など親族の女性のためということになるでしょうか。ただし、辻ヶ花は男性が身に付けた例も多く、本作が男性用だった可能性は十分あります。その場合は、戦で亡くなった夫のために形見の品を奉納し、冥福を祈ったという事情を想像しても良いかもしれません。

いずれにせよ、本作は故人の供養のために、遺愛品である衣服を奉納し袈裟に仕立てたという経緯が想定されます。神仏への捧げものは、信仰心の表れであるとともに、人びとの切実な願いが込められた品でもあります。

### 主要参考文献

小山弓弦葉『辻ヶ花』の誕生〈ことば〉と〈染織技法〉をめぐる文化資源学 東京大学出版会、2012年

・◎は重要文化財、○は重要美術品を示します。  
・都合により展示作品を変更する場合があります。

## 出品作品リスト

No	作品名	品質	時代	法量(cm)	コレクション
1	◎ 太刀 銘「一」 柄附 鉄(鍛造)	鎌倉時代 13世紀	太刀：長67.0 反り1.5 打刀柄：総長93.8		松永コレクション
2	○ 扇面散文鏡	白銅製	南北朝時代 14世紀	径19.5	松永コレクション
3	鴛鴦文和鏡	青銅製	平安時代 12世紀	径18.0	松永コレクション
4	神像文鏡	青銅製鍍金	平安時代 12世紀	径18.2	松永コレクション
5	経筒	青銅製	平安時代 元永元年(1118)	高30.3 脳径13.6	松永コレクション
6	法隆寺百万塔	木造、彩色	奈良時代 8世紀	高20.7	松永コレクション
7	珠数文蒔絵八角沈箱	木胎漆塗	南北朝時代 14世紀	高8.3 径13.5	松永コレクション
8	火舎香炉	青銅製鍍金	平安時代 嘉応2年(1170)	最大径30.7	松永コレクション
9	仏像毛彫鉢	青銅製	奈良時代 8世紀	高11.7 口径24.4	松永コレクション
10	仙蓋形水瓶	佐波理製	平安時代 10-12世紀	高39.7 脳径13.2 高台径9.0	松永コレクション
11	蓮池文磬	青銅製	平安時代 12世紀	高9.2 足間26.7	松永コレクション
12	宝相華文鼓胴	木胎漆塗	奈良時代 8世紀	長48.5 脳径15.5	松永コレクション
13	舞楽面	木造、彩色	平安時代 12世紀	赤面：長17.0 幅13.0 白面：長18.0 幅12.5	松永コレクション
14	辻ヶ花染九条袈裟	絹製、刺繡、金摺箔	桃山時代 16世紀	縦133.0 横313.0	松永コレクション